

むらかみ きょうし  
**村上 杏史** (1907~1988)



俳人。温泉郡東中島村(現、松山市)出身。本名は清。東洋大学を卒業後、朝鮮半島へ渡り、木浦の京城日報で新聞記者として働きながら清原拐童(福岡県出身の俳人、高浜虚子の高弟)に入門して俳句を学んだ。昭和8(1933)年には虚子にも出会い、その翌年から、木浦で俳誌『かりたご』を主宰した。

太平洋戦争終戦後は故郷の中島に帰り、創作活動続けるかたわら、戦争被害者のための授産場を開くとともに、昭和22(1947)年には洋裁学院を開設して女子教育に努めた。

昭和29(1954)年、『ホトトギス』同人となって、愛媛県におけるホトトギス派の俳誌『柿』に加わり、その後、主宰となって組織の発展に力を尽くした。昭和42(1967)年、愛媛ホトトギス会会長に就任。また、昭和52(1977)年、松山俳句協会が結成されると同時に会長に就任し、昭和62(1987)年には日本伝統俳句協

会に加わり、同協会の四国支部長を務めるとともに、愛媛県俳句協会会長となって全県下で俳句の指導をした。

## 略歴

明治40(1907)年11月4日	温泉郡東中島村大浦に生まれる。
昭和4(1929)年	東洋大学を卒業後、朝鮮半島に渡り木浦で新聞記者従事
昭和5(1930)年	清原拐童に入門
昭和8(1933)年	高浜虚子と出会う。
昭和9(1934)年	木浦で俳誌『かりたご』を主宰
昭和29(1954)年	『ホトトギス』同人となる。
昭和36(1961)年	『柿』主宰となる。
昭和42(1967)年	愛媛ホトトギス会会長就任
昭和52(1977)年	松山俳句協会会長就任
昭和62(1987)年	日本伝統俳句協会に加わり、同協会の四国支部長就任 愛媛県俳句協会会長就任
昭和63(1988)年6月6日	80歳で永眠

(写真提供：松本博之氏)

### 〈関連図書〉

- ・村上杏史『玄海』 柿発行所 1978年
- ・村上杏史『朝鶴』 東京美術 1981年
- ・朴魯植 村上杏史『朴魯植俳句集』 柿発行所 1983年
- ・村上杏史『木守』 柿発行所 1985年
- ・『えひめ 人 その風土』 愛媛放送株式会社 1986年
- ・『村上杏史集』 俳人協会 1986年
- ・村上杏史 村上千鳥『双鶴集』 柿発行所 1986年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年

〈主な収蔵資料〉…(P228, 147)

〈ゆかりのある場所〉…(P316, 209)